



環境問題について

湖北省・武漢外国語学校 高1（女）

張 極嵌

「地球は一つの星だけでなく、私たちの故郷です」というアメリカの社会広告があります。地球は人類の故郷です。私たちは地球の環境問題を真剣に考えないと、地球は危機に陥って、美しい家を失う恐れがあります。

去年、私は日本へ旅行に行く時、当地のウナギ丼がほかの丼より高過ぎて、びっくりしました。日本料理店の女将とお話したあと、ウナギ料理の値段が高くなる原因が分かるようになりました。不思議なことに、高すぎるのは環境問題だからです。

ウナギの稚魚であるシラスウナギの国内の漁獲量は、水質の汚染、乱獲などによって、去年、5年前の3分の1まで激減してしまいました。このため、日本政府は、中国からの稚魚がこのまま増え続ければ、資源の枯渇につながりかねないと考え、中国政府に、ウナギの稚魚の輸出を減らすように要請することになりました。

現在、温暖化対策、資源保護のあり方、河川環境の改善、完全養殖技術の改良など、大切な食文化を維持するための課題はもう山積みです。

世の中はグルメブームが続いていますが、ウナギの絶滅は防げません。ウナギ丼危機は、私たち消費者にも、取り尽くし、使い尽くし、食べ尽くす文化の再考も求めています。

実は、環境問題は文化の面だけではありません、人の生活と健康にも大いに影響をあたえています。

学校の近くに「太子湖」という美しい湖があります。けれども、最近、生活用水と工場用水を湖に注いだりしているので、工場用水に含まれる栄養塩で富栄養化が進み、赤潮の被害が頻発するので、湖の色は季節によって変わることがあります。それに湖は臭くなって、虫害問題と汚染問題も厳しくなります。

いろいろな環境問題に対して、どうすればいいのでしょうか？ 環境は人間全員に関係があるから、一人一人が自然保護のために自分なりの力を尽くすべきだと思います。

います。ですから国でも、企業でも、国民でも環境問題に注目しなければなりません。

国際連合ではもう「環境保全特別措置法」で工場排水制限や下水道整備などを進め、窒素やリンの排水総量規則も決めました。多くの大国が過去に経済成長を優先するあまり、はげ山が増えて自然が破壊された歴史があります。それに対して、植林して緑を復活させました。高度経済発展を続ける中国は、これからこの問題に直面していかなければなりません。日本の10倍もの人口がある中国は、過去の欧米や日本とは違う経済発展の道を辿るべきです。

また、小さい企業と普通な人も環境問題を見直します。

父の出身は河南です。河南の駐馬地の土産屋に最近現われた看板は、生姜で省エネを進めるものです。店に並んでいるのは生姜からできあがった商品ばかりです。生姜のエキスを抽出したシロップに、擦り下ろした生姜を使ったドロップ、生姜の果肉がふんだんに入っているジャム、地元特産の生姜を使った商品が人気を呼んでいます。

生姜の辛み成分は、加熱や乾燥でショウガオールという成分に変わり、体を温める効果があります。このショウガオールを食品からとることで、体を温め、光熱資源の節約につなげようという試みです。

河南では、特産の生姜を使って節電につなげようという小さい企業の動きが盛りあがりを見せています。

お土産品をはじめ、さまざまな商品や店が登場しており、食べておいしい節電が見直されています。

コマーシャルでよくみる通常の電球に比べ5分の1の消費電力という省エネ電球に私の家も換えようと思います。生活の面でも、私はこのような小さいことからできるだけ環境問題を解決するように自分の力を尽くします。